

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年9月30日(木)

### 《宣教、それは平和を運ぶ使命》

主の平和

今日読んだ福音(ルカ 10・1-12)は何日前かに読んだものと同じ内容ですね。

その時、幾つかの話を申し上げたのですが、今日「働き手が少ない。だから収穫の主にお働き手を送ってくださるように願いなさい。」とイエス様はおっしゃっています。働き手とは誰ですか。何の働き者でしょうか。(司祭のこの質問に一人の信者さんが答えました)「司祭を中心に信者全体が福音宣教のために動くこと。」この福音に私達が接する時に働き手と言えば、特別な生き方をする人、例えば司祭とか、修道者とか、宣教者とかを思い浮かべると思います。しかし、実際に今日の福音は、私達のことをおっしゃっていると思います。

それではその働き手がする使命は何でしょうか。今日の福音には本当に大事なメッセージが入っています。神様から遣わされる働き手が、皆持たなければならない考えかた、それは“平和を運ぶ使命”です。“平和を運ぶ使命”を持たなければ、仮に私が出掛けて行って、もしそこで分裂が起こって、いつも平和を探し難くなったら、その人は司祭でも修道者でも宣教者でも信者でも自分のことを180度変えなければならないと思います。

その平和とは何でしょうか。何にもしなくても楽な気持ちになることでしょうか。いいえ、イエス様がおっしゃった平和は熱いものです。自分の心を熱くして「私は何かやらなければならない!」。そのような伝染する病気のようなものです。その平和は戦いがないことを意味しません。平和があってもその中に色々な口争いとか意見の違いが混ざり合うかも知れません。

さあ、“平和の運び”、それは何処から来るのでしょうか。福音を伝える時、伝えようとする人々の間違の一つは、自分の中にある何かを伝えようとする事です。ですから失敗します。結構簡単な事です。自分のものを伝えようとするれば、自分が今まで歩んで来た道でかかえてきた失敗をそのまま移します。しかし、自分は全然そういう能力はない者だけど、遣わされたその尊い召し出しを持っている。“私はただ渡せばいい、神様からいただいた平和を渡せばいい”。その後は聖霊の働きに任せればいいのです。けれども私達は、大体が恐れるのです。「私が何をしたらいいのか、あまり聖書の知識もないし神学的に何も解らない、ただ日曜日に教会に通うぐらいなのに、何故私が手を伸ばせるのか」と。その考え方は大間違いです。「一生懸命に勉強して、私は宣教師としてどうにか体で動いているから大丈夫よ。」と思うと100パーセント失敗します。専門家といえば、もっとへりくだる心を持つ事です。「自分は何も出来ないので、イエス様が助けてくれなかったら私は絶対この仕事が出来ません。」と自覚するのが正しい反応だと思います。

皆様、何を恐れているのでしょうか。私達が何の能力がなくても、“イエス様の平和”がどれほど

のものかと少しでも分かったら、私達はただ運ぶ者として誰かの所に行って手を伸ばせば、その方がもし嬉しく思われたら、ただ私がいることによって何とか生きる意味を気にする、そして探し求めようとするそんな姿が現れたら、それが福音宣教ではないかと私は思います。

ただ、私達働き手が手を伸ばして、もし拒まれたらどうしますか。「はっきりしなさい。しっかりしてほしい」とイエス様がおっしゃっています。「<sup>ほこり</sup>埃も全部払い落としなさい。そして神の国が近づいていると言いなさい。」というイエス様の断言が今話されました。

皆様、私は何週間前からこれからの司牧の方向をどうすればいいかが、絵に描かれたような気がしました。日本人には待降節の黙想会を基点として動き始めようとしています。多国籍のそれぞれの共同体は動き始めました。例えば、韓国の共同体ではこの太田市内に、カトリック信者なのに色々な事情で、また色々な罪意識のために教会に来ていない韓国人が結構います。そのような人々のために先ず話し合ってください。そして色々な問題点があったらその問題点をどのように解決するか出来る限りのことを考えて取り組んでほしいのです。そして結論として一つの方向性が出されたら、たとえそれが失敗でも成功でもやってみる事です。私自身、9ヶ月前に皆様に呼び掛けたそのやり方を反省し、司牧者として、具体的な道案内が必要ではないかと考えてみました。

皆様、そんなに難しいことではないと思います。私達はただイエス様の“御心を運ぼうとする”、“平和を運ぼうとする”、それだけです。渡したら去ってもいいのです。その後はその人に聖霊が働きます。それだけ信じながら私達が後悔しないように出来ることをやりましょう。

ありがとうございました。